



# アバカス・サーキット第290戦（5月大会）成績



当教室からは初のアバカス・サーキットへのエントリー、F1に2名、F2に23名が参加しました。F2のイエロー文鎮をゲット！という目的もあり、大半の参加者が初回はF2に参戦する中で、果敢にも2名の生徒が初回からハードルの高いF1に挑戦してくれました。（ピンとこないと思いますが、F1とF2の難易度の差はとても大きくて、例えると富士山と本宮山くらいの差はあります…たぶん☺）

今後、毎月20日前後に同大会にチャレンジしますので、自己ベスト更新を目指してレッツゴ～！

## F1

成績表 5011名参加

順位	氏名	学年	得点
1106	林 亜 蓮	小6	226
2113	伊 東 大 輝	中1	169

メディアなどで取り上げられるような有名な選手が参加する全国規模の大会でふたりとも善戦しました。学年別で順位を見ると

◇林くん…1104人中 第177位（上位16%）、  
◇伊東くん…538人中 第303位（上位56%）  
という成績。

ほとんどの参加者はこれまでに数回から数十回参加している中で1回目からよく健闘しました～！まだ初回ですし、さらにランクアップ&高得点に到達できるように練習していきましょう。

ちなみに今大会の1位選手は大学生ですが、得点は300点満点、時間は3分18秒（3種目の合計）。

小学生の1位もやっぱり300点満点で時間が4分8秒（当然3種目）。凄すぎて言葉が出ません…。

また全参加者のなかで71名が300点満点を獲得しています。当然ですが、誰一人簡単にこのレベルに到達した人はおらず、みなさん日頃からコツコツと努力を続けているはず。見習いたいものです…。

## F2

成績表 1876名参加

順位	氏名	学年	得点
1	伊藤 彩羽	小6	180
1	北國 彦壺	小6	180
1	首藤 菜仁	小5	180
5	鈴木 桃寧	小4	178
9	原田 龍晟	小5	174
12	加藤 政樹	小6	172
12	杉石 美心	小6	172
19	松井 千紗	小6	170
32	島 慶多	小5	164
50	石黒 日菜	小6	160
84	狩野 鳳生	小6	156
146	池田 充希	小5	150

3名の生徒がみごと満点ゲット。いくら易しい問題だとしてもノーミスで90問計算できたのは立派です。

150点以上取るとF2は卒業となり、次回からはF1への参加となります。

F1になるといきなりグ～んとレベルアップしま

すが、最初は出来なくて当然です。少しずつ自分の暗算力を向上させていけば大丈夫。特に見取り算は暗算で3ケタの足し引きが出来るレベルが必須ポイント！見取り算の珠のイメージがしっかりと固まってくるとケタ数が多い掛け算・割り算も割とスムーズに進みます。

また今回150点に満たなかった皆さん、まだまだこれから練習していけば大丈夫ですよ～！特に21番以降の問題を正しく&はやくできるように取り組んでいけばゴールが見えてきます。150点取れば全珠連の暗算検定3級と同じ実力。最初のイエロー文鎮をゲットするため、パワーアップしていきましょう。

### F1のレベルはどれくらい？

F1での獲得点数を暗算検定（全珠連）のレベルに合わせると大体右のような感じになります。

まずは自分の暗算級位・段位に合わせて当面のF1目標を設定するのが良いでしょう。

まだ習っていないレベルの問題でも尻込みせず積極的に取り組んでいけば必ず暗算で出来るようになります。「千里の道も一歩から」です。易しい問題のケアレスミスをなくし、難しい問題にも果敢に挑戦する意気込みで臨みましょう。

300点満点	10段	220点以上	4段
290点以上	9段	200点以上	3段
280点以上	8段	180点以上	2段
270点以上	7段	160点以上	初段
260点以上	6段	140点以上	1級
240点以上	5段	100点以上	2級

### 検定試験とアバカスサーキットの違い

	検定試験	サーキット
コマ	付け忘れは✖ (3級以上)	不要(付けても良いが無くては✖にならない)
数字	0と6,1と7など紛らわしい場合は✖	柔軟に対応する(極端にヒドくない限り○)
見取算	左の問題から順番にやる	右の問題からやる
小数	段位の掛け算・割り算で出題	小数問題は無し・整数のみ

暗算の検定試験は問題数が決まっていますので、計算の早い生徒はすべての問題の答えを書いてもまだ時間が余る場合がありますが、サーキット(F1)は問題数が多く(1種目50問×3種=150問)、圧倒的に時間が足らなくなるのが普通です。

少しでも時間を短縮するため、見取り算は右端の問題から始めることを勧めています。見取り算は同じレベルの問題が横一列に並んでおり、左の問題からスタートすると答えを書くときに自分の右手で次(右)の問題が隠れてしまいます。答えを書くわずかな時間も有効に活用するために、右手で鉛筆を動かしながら視線は次(左)の問題に移し計算し始めるために、右の問題から順番に始めていきます。最初は戸惑いを感じるでしょうが意識的に続けていけばすぐに慣れます。ただし鉛筆を左手で持つ生徒は左側の問題から始めても構いません。一問でも多く正答できるように皆さん少しずつ工夫していきましょう！